

(4) 前年度の学校評価
ア 自己評価結果等

前年度の重点目標	教職員全員が一丸となって地域社会にとって有為な人材の育成するために協働し、一人ひとりを大切にしたい指導を推進するとともに、基本的生活習慣を確立させ、就業に対する意識と健康・安全に対する意識を高揚させる。		
項目（担当）	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総 務	PTA活動の活性化及び保護者との連携	「PTAだより」の改善	保護者への依頼文書は郵送等でも行った。保護者会では、保護者の出席率もよく、担任の先生方が保護者と連絡を密に行ってくれた。
		保護者会の充実	
	天災を想定した防災計画	天災を想定した避難訓練の充実	昨年度の防災訓練は雨天中止としてしまったので、今年度は雨天でも防災訓練を行えるよう計画した。天候にも恵まれ、スムーズに避難訓練ができた。
		非常用備品の点検	
教 務	学習内容の精選・工夫	学習内容の精選・工夫を図る。	コロナウイルス対策による出席停止となった生徒に対し、課題等で適切に対応して授業補償を行うことができた。
	授業規律の徹底	履修状況報告書を活用し、授業規律の徹底を図る。	履修状況報告書の提出もほとんどなく、多くの生徒は落ちついて授業に臨むことができた。
	学習指導の充実	学期毎に行う指導の充実を図る。	学期毎に行う指導を大切にし、生徒へ適切な指導を行うことができた。
	保護者との連携	保護者との連絡を密に行い、日頃から連携を図る。	コロナウイルス対策により、今年度も特別保護者会を書面で行った。
生徒指導	能動的な学校生活への取組	職員のより積極的な関りから、自己肯定感の高揚を図る。	今年度においては、遅刻・欠席についても、例年より微減している。特に1年生においては、前向きに学校生活に取り組む生徒が多く、教員とコミュニケーションが図れる生徒が多い。
		より関係性の高いコミュニケーションの充実	
	問題行動の未然防止	担任部の積極的な活用による生徒状況の定期的な把握と共有。	担任部での情報交換により、より他学年の細かな状況が把握でき、日常的な指導につなげることができている。しかし、水面下においては問題行動につながると危惧されるケースが散見される。
		情報の積極的な活用と生徒への具体的なアプローチ。	
生徒会	生徒会役員が主体となつての学校行事運営	生徒会活動の充実	例年よりも、多くの生徒が生徒会行事に参加した。コロナの影響で、球技大会・文化祭が中止となり、課題が残った。
進路指導	進路意識の向上	自己分析および職業研究の指導	先生方の協力のもと、面談などを通して生徒一人一人の希望および適正を見極め、指導することができた。
	個々の進路希望に応じた進路指導	個々の希望に応じた就労先および学校情報の提供	
保健給食	食事マナーの教育	自発的な手洗い指導	先生方の協力・指導のもと、給食前の手洗いと消毒の徹底ができた。
	健康管理の把握	健康観察の実施への準備	モニター式の検温器に、全校生徒の登録を行うことにより、毎日の健康観察を実施することができた。
	教育環境の整備	教室整備の充実	大掃除時にロッカー整備等を行い、教室整備ができた。
担 任	あいさつの徹底	登校時を中心に、積極的に生徒へ声かけしていく。	多くの生徒が挨拶できているが、1年生を中心とする一部の生徒の中には、挨拶をする習慣がないものもいる。今後も粘り強く声をかけていきたい。
	行事、HR活動の充実	魅力ある行事、HR活動の充実化	3・4年生の欠席が目立った。一方で、1・2年生の出席率は、例年より高かった。今後も積極的な参加を呼び掛けていきたい。
機 械	機械に関する基礎・基本を身につけ、活用できる力を養う。	道具の正しい使い方の習得および機械の安全な操作方法の習得	聞き慣れない道具の名前に対する指導や、初めて触れる機械に対する指導には苦慮した。
		工業科目の基礎学力向上	基礎学力に差があり、専門科目の学力向上にも多少差異が生じた。
	安全作業に向けての個人の意識向上。	作業場の整理整頓	作業場での整理整頓や安全作業のための様々な指導についても、生徒も素直に取り組み、安全作業に対する認識も身についたようである。
		生徒自らの安全作業に対する意識改革	
総合評価	・新しい生活様式の中、全体的に落ち着いた雰囲気です学校生活を過ごすことができた。 ・新型コロナウイルス対策によって学校行事を見直し、生徒が活躍する機会が例年より少なくなりました。		